

「地域おこし協力隊が見つけた」

## しらたかの鉄人!達人!



①伊藤会長が地道に取材して作った映像や資料の一部。データを抽出して映像にするのが大変とのこと ②「春待ち桜」というDVD。薬師ザクラの冬の間の記録が収められている ③取材に欠かすことのできない愛用の機材の数々。最近ではドローンを使っているとのこと



## 「白鷹町芸術文化協会」

伊藤 久志さん (鮎貝・73歳)

## 「未来につながる映像を残す」

白鷹の風景やお祭り、行事等を取材して映像に残しはじめたのは、伊藤会長が川西町から白鷹町へ移ってきたときから。「白鷹には川西にはないすばらしいものがたくさんあった。でも、地元の人はずらら当たり前のように感じているようだった」と伊藤会長は当時を振り返ります。

さらに、「地域づくりという『新しいイベントを』』と考えがちだが、それらはいろいろなデータがあるからこそできるもの。だから映像を保存して、利用したいという人の為に残しているんだ」と話してくれました。

また、「例えば『獅子』だけ。昔は集落ごとやっていたが、人がいなくなりできなくなってきた。でも、何十年後に『やってみよう』という人が出てきたときのために記録を残している」と、町に残る文化の「未来」にも目を向けています。

それでも、やはり最初は取材を行うことに葛藤があったそう。「頼まれると大きな顔して参加できるけど、そうでなければ『なぜいるの?』と思われる。でも、記録を残すことはそのときしかできないからこれからも続けていくよ」と力強く話してくれました。

のどか村での田植えの映像を伊藤さんが持ってきてくれたんです。早速、両親に映像を見てもらいながら話したらすごく伝わり、そのことを伊藤さんに話したら「言っても目で見ればわかる」と答えてくれて、本当にその通りだなと思いました。

地域おこし協力隊  
菅野 裕子さん

▼1月下旬から日本に過去最強クラスの寒気が居座り続け、全国各地にさまざまな被害をもたらしました。特にニュースで取り上げられたのは、東京都心を中心とする関東圏域の様子。積雪による交通機関の乱れにより、駅にこった返す人たちが道路に立ち往生する車の数々。ただただ寒い中大変だなあとテレビを見つめていたところ、東京の友達から1件のLINE(ライン)が。送られてきたのは小さな「雪だるま」の写真……なんだ心がほっこりしました。

▼今年は白鷹町でも豪雪対策本部が設置されるほどの大雪。私も少しでも町民の皆さんの役に立てればと、除雪ボランティアに参加させていただきました。しかし、あまりの雪の多さにより作業は難航。できる範囲でしかきれいに除雪できませんでしたが、涙ながらの感謝の言葉に、温かい気持ちになりました。

▼人とのコミュニケーションの中には、心温まる瞬間がたくさんあります。最近の出来事から、あらためてそのように感じた「冷え性」のてづかでした。(てづか)



SELF JUDGE  
編集後記